

# 第2回獣医師生涯研修事業運営委員会議事概要 (学術部会個別委員会)

I 日 時 平成18年10月16日(月) 13:30 ~ 16:30

II 場 所 日本獣医師会・会議室

## III 出席者

- 【委員】** 加茂前秀夫 東京都獣医師会 (東京農工大学教授)  
桑島 法昭 千葉県獣医師会理事 (八千代動物病院院長)  
佐藤 繁 宮城県獣医師会 (宮城県農業共済組合連合会県南家畜診療センター所長)  
中山 正成 奈良県獣医師会副会長 (中山獣医科病院院長)  
廣嶋 実 東京都獣医師会理事 (広島動物病院院長)  
藤田 桂一 埼玉県獣医師会 (フジタ動物病院院長)  
務中 昌己 広島県獣医師会 (広島大学名誉教授)  
山本 茂貴 東京都獣医師会 (国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長)
- 【部会長】** 酒井 健夫 (担当理事)
- 【本会】** 中川 秀樹 (副会長)、大森 伸男 (専務理事)

## IV 議 事

### 1 第1回獣医師生涯研修事業運営委員会の検討結果 (説明)

#### 2 協議・検討事項

- (1) 獣医師生涯研修事業の対応の方向 (新たな出口論) について
- (2) 日本獣医師会雑誌「生涯研修のページ」の企画について

## V 会議概要

会議の冒頭、中山委員長から挨拶が行われた後、委員長により議事が進められた。

### 1 第1回獣医師生涯研修事業運営委員会の検討結果 (説明)

事務局から、第1回委員会では今後検討項目を絞り、①「認定証」交付者の位置付け (いわゆる出口論)、②事業内容の方向、③広報方法等について協議することとされたことが報告され、会議概要については特に異議なく了承された。

#### 2 協議・検討事項

- (1) 獣医師生涯研修事業の対応の方向 (新たな出口論) について  
①大森専務理事から、生涯研修事業の発足の経緯、これまで幾度となく行ってきた事業内容の見直し・整備の検討の経過等を含め、現行の事業のスタイルとした委員会の考え方等を、資料を元に大要以下の説明を行った。

ア 獣医師生涯研修事業は、平成12年度から3年間にわたり試行を実施し、3年目の平成14年度には「獣医師生涯研修事業に関する検討会」を設置して事業の仕組みや基本的な考え方等を検討・整理したうえで現在事業が運営されており、地方獣医師会、他の学術団体等の参加協力のもと、全国で相当数の認定プログラム研修が実施されており、その数も年々拡大してきている。

イ 事業運営上の課題としては、ポイントを取得しているにも関わらず積極的な申告が行われていないこと、事業への参加を魅力あるものとするため定期的な研修プログラム・カリキュラムの見直しが必要であること、研修の媒体としてインターネットをはじめとした新たな研修方法を検討する必要があること、本事業により取得した実績を今後新たな出口論として資格認定に結び付けることなどがあげられる。

ウ 本事業の評価の仕組みは、これまで種々議論されてきた結果を踏まえ、ポイント制に基づく修了証と認定証の交付という形で整理されたが、今後、この研修事業をベースとした新たな展開として、認定証の取得を要件とした臨床認定医制度等を検討する時期に来ている。

②次に、獣医師生涯研修事業の対応の方向（新たな出口論）について、以下の検討が行われた。

ア 獣医師生涯研修事業の実施については一定の評価が得られているが、残念ながら年々実績証明書や修了証の交付者数が減少しており、ポイントの取得申告等を増加させるためにも本事業の出口論を検討して進む方向を明確にすべきではないか。

イ 認定証の取得を要件として一定の試験等を課し、合格者を臨床認定医とする制度を立ち上げてはどうか。一般の飼い主にとって、かかりつけの獣医師が臨床認定医であることは望ましいことであると思われ、社会貢献にもなるのではないか。

ウ 専門医になるためであれば、その要件として試験等を課すことに問題はないが、生涯研修事業に継続参加した獣医師に試験を課し、臨床認定医になれる者となれない者を作ることは会員獣医師の差別化につながり、会員の獣医師会離れを生むことにもなりかねない。

エ 本来、獣医師生涯研修事業は既存の獣医師が継続教育を受けられる機会を提供して、獣医師全体のレベルアップを図ることが目的であるので、差別化につながるようなことは事業の主旨とは異なるのではないか。また、ポイント制度は生涯研修を受けた獣医師の励みとするために取り入れた方法であり、会員獣医師を差別化するためのものではない。

オ 臨床認定医制度と継続教育を目的とした生涯研修事業とは分けて考える必要がある。また、この委員会は獣医師のための生涯研修事業内容について検討することが主旨であり、獣医師生涯研修事業の出口論として臨床認定医制度を検討するのであれば、別途ワーキンググループ等を編成して検討することとしてはどうか。

カ 獣医師生涯研修事業の出口論について云々するよりも、獣医師の知識・技術の底上げを図るための教材作りや研修システムの構築等に力を入れることが重要

ではないか。

キ 本事業が獣医師全体のレベルアップを目的とするのであれば、生涯研修カリキュラム内容等の見直しを図り、より質の高い研修プログラムを参加者に提供する必要がある。

ク 獣医師生涯研修事業に参加・申告した証として発行している「実績証明書」や「修了証」、特に今後発行が予定される「認定証」については体裁的にも魅力あるものにする必要がある。

(2) 日本獣医師会雑誌「生涯研修のページ」の企画について

日本獣医師会雑誌に掲載している「生涯研修のページ」の執筆者への依頼について、今後の交渉担当者を決定した。

また、これまで「生涯研修のページ」に執筆者名が記載されていない理由については、本企画の監修責任はあくまでも獣医師生涯研修事業運営委員会であり、内容に関する質問等が執筆者本人に寄せられることを避けるためであったが、原稿執筆を依頼する際に執筆者名が掲載されないことを指摘されることがあるので、今後は各年ごとに日本獣医師会雑誌の12月号に執筆者の氏名と所属を五十音順にまとめて掲載することとされた。

(3) その他

申請が行われたポイント取得対象プログラムの審査は、今後は原則として事務局が事務的に行い、判断が難しい場合については委員長・副委員長の確認を求めるととされた。

(4) 会議の最後に、中川副会長から以下のとおり挨拶が行われた。

獣医師が継続して生涯教育を受け、公益法人である日本獣医師会の構成員として社会貢献ができるよう、引き続き獣医師生涯研修事業運営委員会の指導をお願いしたい。

### 3 まとめ

第2回委員会は中山委員長により以下のとおりとりまとめられた。

- 1 獣医師生涯研修事業の対応の方向（新たな出口論）については、早急な結論を急がず、本委員会において出された意見をもとに再度内容の整理・検討を行う。
- 2 認定証等の様式・体裁については、取得する側のことを考え、より魅力あるものにする。
- 3 研修プログラム及びカリキュラム内容の全面的な見直しを行う。